

「きらり 31」一年生セル苗の全量基肥施用による効率的な肥培管理と生育特性

利用対象：三重県内の改植・新植を行う茶生産者

「きらり 31」などの戦略品種の面積拡大に向けて、一年生セル苗の利用は効率的な苗供給が可能となると期待されています。一年生セル苗は従来の二年生苗よりも根域が狭いため、適した肥培管理を行い、充実かつ安定した初期生育を確保しましょう。

1. 全量基肥による定植方法

- 畦をマルチシートで覆い、乾燥害や肥料の流亡を防ぎます。
- 深さ 15cm の植穴へ、緑化木用 IB 肥料 (23-2-0) を、2 粒ずつ (N13.3kg/10a 相当) 施用します。
- 定植 1 年目は根域が狭いため、株元に施用することが重要ですが、定植は根が肥料に直接接触れない位置へ植えましょう。
- 定植 2 年目の 9 月にマルチシートを除き、秋肥として N7.5kg/10a を施用します。

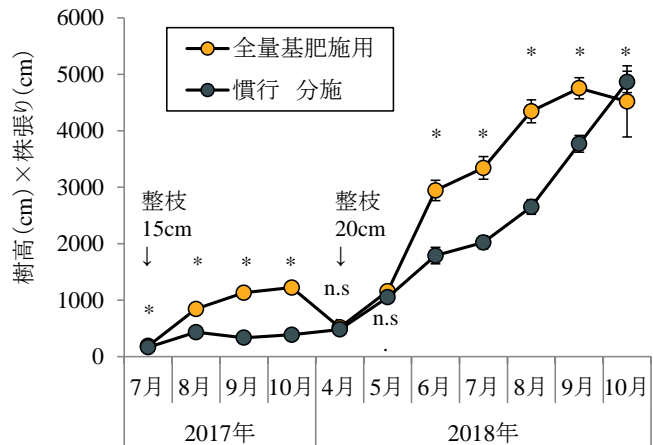
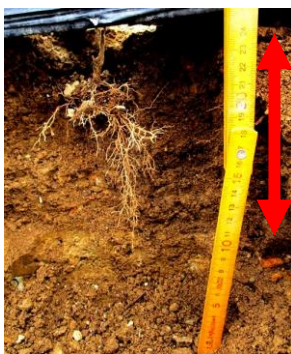


図1 全量基肥施用した「きらり31」の定植後2年間の生育量の推移(平均値±標準誤差。2017年3月定植。*5%水準で有意差あり。)

- 「きらり 31」の一年生セル苗を本手法によって定植すると、2 年間は慣行施肥よりも樹高、株張り、葉色ともに充実した株が得られます(図 1)。
- 定植後 2 年間の窒素施用量は慣行(37.5kg/10a)よりも少なく、全量基肥施用のため省力的です。
- 本手法は地挿しの一年生苗にも適用できます。

2. 一年生セル苗の根の生育と、管理上の注意点



- 定植 1 年目は、根が株付近に分布し、畦の下層にはほとんどありません(図 2 左)。
- 定植 2 年目には、根が畦全体に拡がり、50cm 下層まで大きく伸長します(図 2 右)。
- 定植 1 年目は干ばつによる枯死や、強風による倒伏が発生するおそれがあります。
- 灌水処理や風よけの設置による対策を行きましょう。

図 2 一年生セル苗の定植 1 年目(左・2017 年 9 月。矢印は 15cm)および定植 2 年目(右・2018 年 11 月。矢印は 50cm)における根の生育状況

お問い合わせ先	茶業・花植木研究室 茶業研究課 田中千晴 電話 0595-82-3125 中央農業改良普及センター専門技術室 野村茂広 電話 0598-42-6707
参考になる資料	http://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm